

令和３年度福岡市博物館協議会 議事録

日 時	令和４年３月２５日（金）１０時００分から１２時００分まで
場 所	福岡市博物館 講座室１
出席者	福岡市博物館協議会委員 １０名 福岡市博物館 １０名
議 題	（１）会長・副会長の選任について （２）福岡市博物館の事業について ①令和３年度事業報告 ②令和４年度事業計画 ③博物館リニューアル推進事業

１ 開会

事務局 委員の過半数以上出席であり、本協議会は成立している旨を宣言。

館 長 開会あいさつ

２ 議題

（１）会長・副会長を選任

（２）令和３年度の事業報告

令和４年度の事業計画を説明

博物館リニューアル推進事業を説明

３ 質疑応答

以下のとおり

◎事業報告・計画に関する質疑応答

委 員

柳川市ではふるさと納税の返礼品に柳川市史の通史編を送っており、人気があるが、福岡市史でもブックレットなどを返礼品にする考えはあるか。

協議会のような場では、博物館の所蔵資料に、国指定や県指定などの資料がいくつあるのかを報告してほしい。

教育普及について、学校教育と社会教育があり、どちらも体験学習を行っているが、単純に学校に対するものが学校教育、公民館に対するものが社会教育のカテゴリーに分けられるのではないと思う。特に社会教育の部分では、その場所で完結してしまっている危惧があるので、例えば公民館で市史のブックレットを熟読する会を行うなど、博物館への導線を確保するようなアプローチがもっと必要なのではないか？

事務局

ブックレットを返礼品にするご意見について、現在の制度では、財政局の方で返礼品を一括して管理しているようなので、すぐには難しいかもしれないが、非常に有益なご提案だと思うので、少し研究しようと思う。

事務局

福岡市博物館の所蔵品では、国宝3件、重要文化財4件、県指定文化財3件、市指定文化財8件の全体で18件になる。ただし、それ以外にも寄託や、国が持っているものをうちで保管しているもの、或いは展示用に借用しているもの等合わせると、総数で46件の指定文化財が館内にある。国宝については、金印、それから刀剣二振が、非常によく知られているが、それ以外の重要文化財・市指定文化財はなかなか浸透していないので、紹介を進めていくよう考えている。

事務局

教育普及に関して、便宜上、会場となる施設の違いで学校教育・社会教育に分けて説明した。もともとは学校を対象とした事業が先行していた。開館以来、「来てもらう」ことに熱心に取り組み、平成17～18年ごろまでは、中学2年生を対象に一日ないしは半日、博物館施設や展示に親しんでもらうことを学校行事に入れてもらっていた。それが今、バス代の関係で、開催件数が非常に減っている。そういう事情を踏まえながら、平成10年代に、今度は小学校を対象として出かけていくことを始めた。それがプログラムとしてまとまった形となり、実施件数が増えている。そのあと、公民館でもこのプログラムをやってもらえないかとのニーズが発生して、今、実施できる体制になっている。一方、公民館やグループが抱える多様な要望に対しては、市史編さん室を中心にワークショップを企画するなどの対応をしているが、組織的・定例的にはしていない。今、リニューアルや市史編さん事業を通して、地域の歴史文化に関する情報の体系化が図られているので、今後は地域の人達と地域の歴史を深く掘り下げていく事業に取り組みたい、取り組むべきと考えている。また、体制的に関しては、博物

館だけでなく、文化財保護行政との連携も必要だと考えている。

委 員

以前、出前授業の形で子ども達に体験学習をしていただいたが、子ども達にとってはとてもうれしい活動の場であり、体験自体も良かった。しかし、今考えると歴史に対する夢やロマンを子ども達に伝えてもらったかということに関しては疑問に思う。勾玉をつくることが目的になってはいけないので、その部分を大切にしてほしい。

また、コロナの状況もあって、博物館が持つ学術的な価値に触れる機会がなかなかないために、中身の質の向上や来館者の満足度向上、オンラインコンテンツの拡充が大切ということも分かるが、そこに持っていくための方法が不十分な時がある。公民館への告知も公民館支援課経由で流しても効果はあまり期待できないので、職員が現場に足を運ばないといけないと思う。博物館の中にいて人を呼ぶのではなく、博物館の外に出て声をかけることを大事にしないと、人は増えないし、広がらないのではないか。

また、オンラインコンテンツの拡充もするのはいいが、それに頼るといけないと思う。これは学校でもやっていることだし、公民館も待っていることである。

事務局

なかなか今の体制だと、地域の方と顔が分かる関係になることは難しい。ただ、今後のリニューアルを考えると、区役所の地域担当者の力を借り、地域と博物館をつなぐという市役所の仕組みを上手く使うことは、手始めにできることではないかと考えている。

委 員

社会教育とか教育普及とかの話題が挙がっているが、これはまさに説明で出された課題の「求められる人材」という部分にある「共創」の話だと思う。この人材がそもそも博物館の中にいない、もしくは育てられる仕組みがないと思う。福岡市内ないし周辺にある都市圏の大学では、地域の歴史とか郷土のことを学ぶ項目が少なく、それに対するニーズが高まっているので、そこに対するアプローチと繋がっていくことで、出て行く機会は確実にあると考える。

委 員

博物館が、特に 20 代の方々をターゲットにどのようなアピールをするかということがすごく大切で、それはスタートアップのような福岡市の施策にも関わってきていることである。外から入ってきて、福岡市で子育てをする 20 代前半が多いので、その方々にちゃんと届くような広報をしなくてはいけないと思う。SNS や Instagram で頑張っているようだが、別の自治体で 20 代の座談会をしたときに、Facebook などは見ないので、Instagram のハッシュタグで情報発信をしなければならないことが分かった。市では LINE を使っているが、博物館では活用していないと思われるので、そこを改善して、これからの SDG s の担い手であり、福岡市の将来

をつくっていくような 20 代の方々に、福岡市がどのような歴史や文化を持っているかを伝えることがすごく大切だと思う。

広報戦略については、大学生のインターンシップを入れてどんどん発信させるということも可能だと思うので、ぜひ検討してほしい。

委 員 文化的なことに予算をきちんと確保することは大切であり、国際的な子どもを育てることは地元を誇れる子どもを育てることでもあるため、予算をきちんと確保していく努力は引き続き頑張りたい。

委 員 協議会の資料に関して、もう少し一つ一つの事業を明確に、事業単位で比較できるような作り方にしてほしい。例えば、広報メディアに露出があったと書いてあっても、メディア会社の後援がついていれば、何らかの露出はあるはずだが、それが実際に集客に結び付いたのかが、本当の課題となるので、もう少し分かりやすく整理してほしい。また、肝心の課題やこの場で共有して議論したいことが資料に入っていないのも非常に残念なので、検討してほしい。

◎リニューアルに関する質疑応答

委 員 リニューアルコンセプト素案については、ハードではなくソフトに関わってくる話だと思う。今後目指すのは、コーディネートやファシリテートが必要になってくるため、職員の働き方や考え方を変えないと対応できないと思う。その意味で、今後確実に人材育成ないし人材確保が必要になってくると思う。提案として、福岡市の中で今後、博物館が文化観光拠点施設となっていくために経済的なところも含めて大きな目線で話ができる方、調整やコーディネートができる方が必要になってくるので、今後検討してほしい。

委 員 スライドの中に、資料と利用者という表記があったが、利用者の部分にはもう少し時間軸を取り入れて、博物館に来た人が過去に関する展示を見て、何らかの刺激を受けて、そこから新しいことやライフスタイルを始めて、行動や意識づけにつながったりできるような、人を中心とした博物館の在り方も検討して良いのではないかなと思う。福岡の施策では MICE やスタートアップに力を入れているが、福岡市は歴史的に見ても新しいビジネスを育てて日本人に広げていった、またはアジアとの交流の中で広げていった街であり、その DNA が今の MICE やスタートアップに引き継がれているので、そこをしっかりと伝える展示やメッセージをつくり、10 代・20 代の方々に「いい街だな」、「こういう過去があったのか」というところから、「こういう DNA があるのだったら自分も何かやってみよう」、「持続可能な形で実現していこう」と思わせられる、時間が未来に開かれたような

新しい形の考え方を入れていくとよいのではないか。

事務局

委員がおっしゃっているようなイメージこそ、多くの方が博物館に求められている機能でもあると思う。

委 員

1つは収蔵庫の問題がすごく大事な話だと思う。先日高知県で見た博物館は、伝統的な収蔵庫とは異なり、二階にあることが売りで想定外の津波等が来た時にも対応できるといっていた。福岡市博物館も海辺に立地しているということもあるし、折角のリニューアルの機会なのだから、科学的なエビデンスに基づいて、そちらの方向に舵を切ることも検討してはどうかと考える。

もう1つは、大学の教員と学生を含めた学知を取り込まないと立ち行かないと思う。博物館と大学は相性がよくなくて、これまであまり円熟した関係をどこも築けていないと思う。それには、博物館の多くが公立であることで、地方行政との絡みが生じ、大学が馴染めなかったことや、学芸員の母体が文学部になっていることで抽象概念を扱うために具体の世界にある博物館と相性が悪かったことがあると思う。ただ、デジタルコンテンツの普及で抽象概念の発信ができるようになってきたり、大学側も研究発表する場がなくて困っていたりするので、博物館からそういう場を貸してもらったりすると、大学にとっても博物館にとっても良いのではないかと思う。そういう大学の学知との有機的な連携を福岡市がモデルパターンとしてつくり、全国的に発信していくような腹づもりでやると、本当のリニューアルになってくると思う。

それから、学芸員志望の学生はかなりいるが、採用の基準が論文の数から実務経験やスキルに変わってきたので、大学院生をインターンシップみたいな形で雇っていくことで、学生側にとっては履歴書に記載することができ、博物館にとっては斬新な発想が生まれたりといったメリットが出てくると思う。市内にはいい大学がたくさんあるので、そこと、がつり組んでいくような感じでやると少し具体的に見えてくると思う。

委 員

市民として、やはり訪れたくなる展示をして欲しい。ゴッホ展に行ってきたが、たいへんな人の入りだった。足を運ぶ人たちの目的としては、展示以外にもお茶や軽食をいただくこともあると思う。今日の資料ではレストランがないのは、リニューアルのためかとは思いますが、ぜひリニューアルする時には、学術的な専門家でなくても行きたくなるような展示と、プラスちょっと付近で楽しめるようなものがあるといいと思う。

委 員

リニューアルのなかで、これまでなかった意見や希望などが集めやすいタイミングが来ると思う。なので、ぜひ、このリニューアル期間は、注目や意見を集めたり、関わってくれる人を増やすタイミングをとらえて

上手に計画的に発信することを勧めたい。

委 員

歴史文化のストーリーの問題が出てきたが、福岡市の歴史は海との関りで築いてきたところがあるので、そういうストーリーを盛り込んでほしい。

委 員

資料の「未来を見据えた展望」について、目的や、誰と誰の関係の話なのか、よく理解できない。図についても、博物館資料の話なのか何となくすっきり落ちない。今までの議論で、博物館の職員がいろんなことに努力していることは分かったが、個人的に、博物館の最終目標は市民が博物館の価値を理解している状況にすることだと思う。一生懸命取り組んでいることは分かるが、最終的に市民の皆さんの博物館に対する認識までを押さえてやっていくといいのではないかと思う。

事務局

委員が言われたように、楽しい場であることは大切だと思う。他館だと来場者が多かった展覧会で、当博物館にはそれほど多くないということがある。それは周辺にお茶が飲めてショッピングができるような、立ち寄りたいスポットがないことも影響していると思う。もちろん、博物館だけで解決できることではないが、一方で、これだけ大きい敷地や公共空間を有しているので博物館を立ち寄りたい場所にしていくことは、リニューアルを契機に考えていかないといけないと思う。福岡市博物館は行ったら楽しいことやおいしいものに巡り合えると思ってもらえるような拠点に整備していく方向は重要だという認識はある。